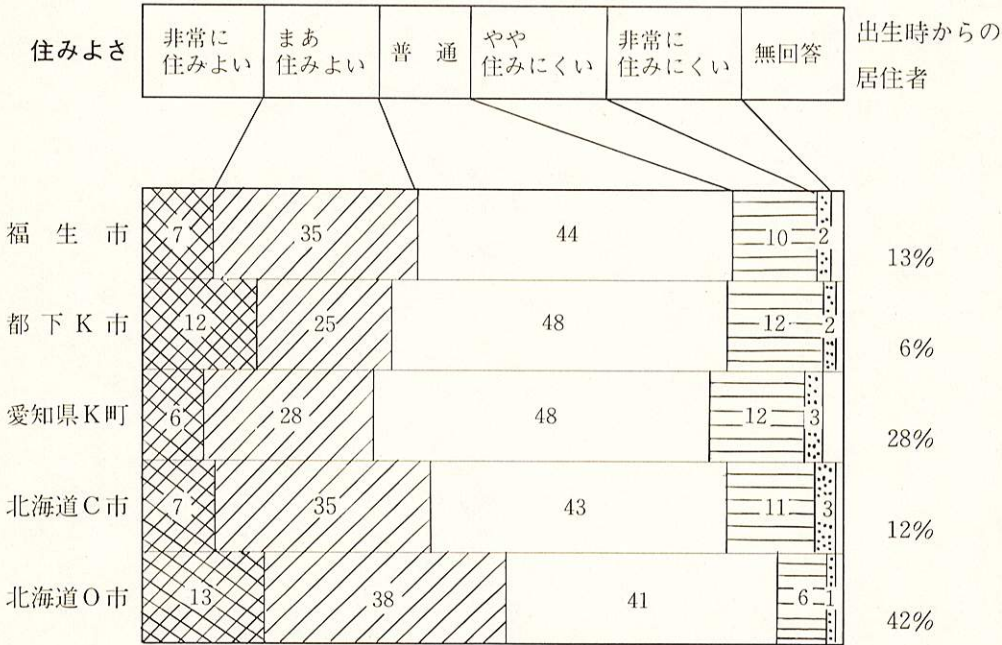


付章 生活環境評価のまとめ

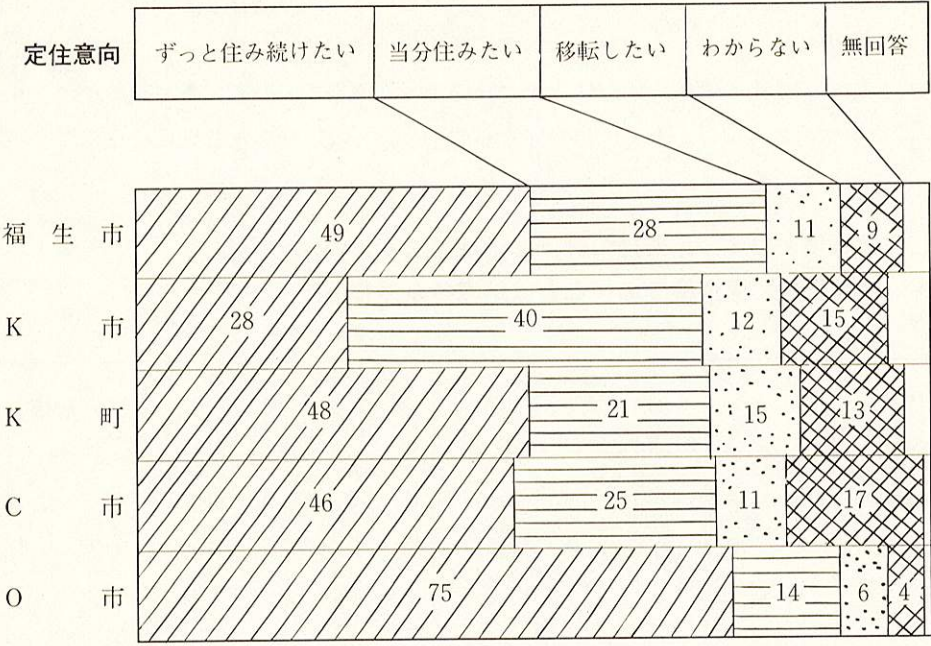
1. 市の全体評価は比較的良好で定着傾向がみえる

住みよい	42%	住みにくい	12%
ずっと住み続けたい	49%	定住不安定	20%

福生市には生まれながらにして福生市民という人が少ない。居住歴の浅い人が多い。しかも就業地が市外にある人も多く生活圏は広く市外に依存するところが多い。したがって流動的な市民が多く市への愛着という面で一端の不安も考えられる。しかし市全体の住みよさの評価は決して低くはない。“普通”という人が多くを占めるが、“住みよい”と積極的に評価している人が42%を占め、“住みにくい”という人は12%である。定住意向においても“ずっと住み続けたい”という人が49%を占め、移転したいなど定住の不安定な人は20%にとどまる。また“当分住みたい”という人までは定住の意向にあるといえ、これを加えると定着傾向にある人は80%近くを占める。ちなみに他市町と比較すると次のようになる。



一般に移住者の少ない都市では住みよさの評価もよく、定住意向も強い。したがって、O市を別とすれば、住みよさの評価は悪くなく、定住意向が高いのが特徴的である。



住みよさの評価は市の総括的評価であり、定住意向は結論的評価である。したがって福生市の全体評価としては比較的良好といえよう。

2. 自然環境は恵まれているが、道路環境、公害に不満が残る

生活環境の諸局面を市環境と地域環境とにわけ、18項目にわたってそれぞれの満足度をみてみると次のようになる。数値は平均評価点である。この平均評価点は、0が基準となっている。+2が最良値であり、-2が最悪値である。

	市 環 境		地 域 環 境	
ベスト3	緑や空気など自然環境	+0.53	住まいの日当たり・風通し	+0.54
	消費生活の場として	+0.10	通園・通学の便	+0.42
	スポーツ文化活動の場として	+0.09	ゴミ・し尿処理	+0.28
ワースト3	働く場として	-0.22	騒音・振動など公害	-0.49
	道路排水など生活環境	-0.20	道路の整備・排水	-0.12
	老後の生活をおくる場として	-0.10	医療機関の便	+0.01

満足度の高いのは自然環境と通園・通学の便で飛び抜けてよい。一方、不満の多いのは、騒音・振動などの公害である。道路環境も満足されていない。しかし全体としてはそれほど不満のあるところは少なく平均評価点がマイナスとなるのは地域環境10項目のうち2項目だけである。この点については市の全体評価（住みよさ）のよさがうかがわれる。ただ地域環境と比べて市環境はややマイナス項目が多く、市全体からすると、もの足りなさも見られる。

3. 自然環境とゴミし尿処理の評価は地域差なくよいが 道路環境、医療機関の便などは地域差が激しい

特 徴	地 域 環 境	地 域							評価差
		A	B	C	D	E	F	G	
各地区評価がよい	日当り・風当り	⑥③	⑤⑧	⑧⑦	⑤①	②⑥	⑤⑦	④③	0.41
	ゴミ・し尿処理	②①	②①	⑥②	③②	①⑤	③④	①⑨	0.47
地域によって 評価が分かれる	医療機関の便	42	34	37		④④	②⑦	③②	0.86
	公園・子どもの遊び場	②②	29	⑧⑤		33	23	③②	1.18
	近所づきあい	11			④④	15	③③		0.59
局地的に評価が悪い	交通の便	③③		48	④①	⑥⑥	④③		1.14
	通園・通学の便	18	⑤②	⑤⑦	⑥⑧	④⑨	⑥⑦	③⑧	0.86
地域によって 評価のよさが違う	買物の便					⑦②	⑤⑧	④⑥	0.70
局地的に評価がよい	道路の整備・排水	62	32	⑥①		27			1.23
各地区とも評価が悪い	騒音・振動など公害	80	79		55	64	25	35	0.70

注) 数値は平均評価点。小数点は省略。

○囲み数字はプラス評価、無印はマイナス評価

無記入は+0.10～-0.10の間にあり“普通”という評価になる。

評価差は最良評価点－最悪評価点

「日当り・風当り」と「ゴミ・し尿処理」は各地区とも満足されており問題はないが、「公害」は各地区とも不満が多い。また、「医療機関の便」「道路環境」などは地域差が著しくある。

全体的にみるとA・B・C地区は自然環境の面でことに評価がよく、E・F・G地区は利便性の面で評価がよい。一方、住みよさの評価はF・D地区でよく、A地区はやや劣る。この点において自然環境ないし利便性は必ずしも住みよさの要因とはなっていないといえる。住みよさの評価の高いF・D地区に共通してよいのは「近所づきあい」である。したがって自然環境に恵まれ、かつ都市機能が整備された福生市においては、今後、コミュニティ形成がかなり大きな要因となってこよう。

4. 住みよさへの影響力は

「市としてのまとまり」、「近所づきあい」などにある

18項目にわたる部分評価と全体評価との相関をみると、住みよさ、あるいは住みにくさに影響を及ぼすものが何であるかわかる。つまり各項目ごとに満足している人の全体評価（住みよさ）と、不満を持っている人の全体評価を比較することによって、どの局面で満足されることが全体の住みよさと結びつきやすいのかを測るわけである。その結果は次の通りである。

	市 環 境		地 域 環 境	
影 響 力 ベ ス ト 大 3	市全体としてのまとまり	1.10	通園・通学の便	0.70
	老後の生活をおくる場	0.87	近所づきあい	0.67
	子どもを育て教育する場	0.79	買物の便	0.61
影 響 力 ベ ス ト 小 3	消費生活の場	0.58	騒音・振動などの公害	0.29
	働く場	0.61	ゴミ・し尿処理	0.35
	自然環境	0.63	交通の便	0.37

注) 数値は満足者の全体評価（平均評価点）－不満者の全体評価

数値の大きいほど住みよさの評価がくい違っているわけであるから、それだけ住みよさへの影響力が大きいといえる。最も評価差が著しかったのは「市全体としてのまとまり」であり、最も少なかったのが「騒音・振動などの公害」である。全体に市環境の方が居住地域の環境より影響力がある。影響力が市環境と地域環境とに共通してあるのは「市全体のまとまり」「近所づきあい」というコミュニティ関係である。この両者は満足度の平均評価点がともに0.0に近く“普通”という評価にあったが、満足されるほど住みよさを感じさせる要因である。先に地域別の評価傾向でもふれたように、コミュニティの果たす役割は大きいといえる。子育て環境についても住みよさへの影響力が大きい。

なお、各地区とも評価の比較的に一定していた「公害」「ゴミ・し尿処理」「自然環境」は全体に影響力が少ない。

5. 重点施策としては「下水道の整備」と「道路の整備・排水」

生活環境の評価からある程度推測されるが、市政に対して特に整備拡充を望んでいるのは次の点である。

要望ベスト3	1. 下水道の整備	32%	(うち第1位	17%)
	2. 道路の整備・排水	27%	(	〃 15%)
	3. 社会福祉対策	24%	(	〃 6%)
	3. 住宅対策	24%	(	〃 13%)

「下水道の整備」と「道路の整備・排水」への要望は生活環境の評価の低さからうかがえるところであるが「社会福祉対策」と「住宅対策」も要望が多い。

「下水道の整備」と「道路の整備・排水」は満足度の高かったC地区を除いて、各地区とも要望の上位にあげられている。また、持家・借家といった一戸建住宅の人に要望が多い。

「社会福祉対策」は上位項目としては要望の第1位としてあげられている比率が低い。また地域・属性にかかわらず上位にある。したがって誰もが望んでいる副次的施策であって緊急度はやや低いといえる。

「住宅対策」は借家・アパート生活者の主要な要望とされ、いずれも40%を超えている。また公営住宅の人でも2番目に多い要望である。

なお、生活環境の中で評価の低かった「公害」については要望として多くは表われておらず10%強となる。地域・属性別にみても20%以上の要望を示めしているところはほとんどみられなかった。